

SPRING

No.93 日本大学 生産工学部 2009年8月4日発行

■学部長メッセージ

学生の目線に立った「学生・学習支援活動」

■巻頭SPECIAL 学部長対談&卒業生インタビュー

ゲスト：(社)日本山岳会会長 尾上 昇さん

「山の魅力に魅せられて、
ほんとうの強さと喜びを知った」

■CIT イベントニュース

風力発電コンペ WINCOM2009

■特集Ⅰ 対談

スタートした新学科の現状と展望

環境安全工学科・創生デザイン学科レポート

■特集Ⅱ 研究最前線

地域連携研究プロジェクト

■トピックス／数理情報工学科

■キャンパスニュース／活躍する学生

■平成20年度 学位取得者

■新任教員紹介

●ミモミのちよい☆ 学生課紹介

ミモミのもっとBikaBika生産工

ミモミのblog掲示板

「学生・学習支援活動」 学生の目線に立った

Contents

■学部長メッセージ	2
■巻頭SPECIAL 学部長対談&卒業生インタビュー ゲスト：(社)日本山岳会会長 尾上 昇さん	4
■CIT イベントニュース 風力発電コンペ WINCOM2009	8
■特集I 対談 スタートした新学科の現状と展望	10
■平成20年度 学位取得者	12
■ミモミのちよい☆BikaBika生産工	13
■特集II 研究最前線 地域連携研究プロジェクト	14
■トピックス／数理情報工学科	16
■キャンパスニュース／活躍する学生	17
■ミモミのちよい☆／学生課紹介	18
■新任教員紹介	19
■行事予定 個人情報の扱いについて	22
■ミモミのblog掲示板	23



津田沼校舎25号館

「SPRING」93号の発刊にあたり、父母の皆様、学生の諸君に一言ご挨拶を申し上げると共に、現在の生産工学部の取り組みについてご説明申し上げます。

生産工学部は、“学生中心の大学・学部”を目指しております。学生の目線に立ち、入学した学生ひとりひとりと向き合い指導していくことに最大の努力をし、骨太の学生を育てたいと考えております。

同時に、多種多様な人材が大学をより一層魅力的にするものと考え、現在、多様な入試制度を導入しております。その結果、学力・興味・進路等あらゆる面で異なった学生達、特に自分探しのために入学した学生達も含め、これらの多様化した学生達に本学部はどう答えるかが今、問われています。

現代社会のニーズをいち早く取り入れながら、新学科（環境安全工学科，創生デザイン学科）の創設や授業カリキュラムを改革すると共に、学生諸君に教育的満足感やキャンパスライフに対する満足感を与えるための「学生・学習支援活動」を実践しております。

その一部をご紹介しますと、勉強の仕方が分からない、何が分からないのかが分からない等、学習するうえで困った時には「アカデミックアドバイザー」に相談できます。大学の授業を受けてみて不安を感じた学生、授業の受け方が分からなくなった学生のために短期間連続の「スタディ・サポート講座」が用意されています。昼休みには気軽に英会話に親しめる



日本大学生産工学部
学部長

石井 進

「English Cafe」があり、毎年琵琶湖で行われる鳥人間コンテストをはじめ、学科の枠を越えて学生達のグループが行う「ものづくりプロジェクト」の支援を積極的に行っております。また、今年はキャンパスアイデアコンペを実施し、学生達の斬新なアイデアを募っております。加えて、「就職対策講座」や「就職セミナー」が開かれる等、日本大学としての総合力やスケールメリットを生かしながら、学生個々の自主性、協調性、独創性を育成すると共に、コミュニケーション能力やマネジメント能力を養うことを目的としております。

このような正規授業以外の「学生・学習支援活動」に対し、父母の皆様のご理解を賜りますようお願い申し上げます。加えて、学生達にとってはより有意義に夏休みを活用すると共に、9月には元気に後期授業へ臨んでもらいたく願っております。

「山の魅力に魅せられて、
ほんとうの強さと喜びを知った」



山を愛する人々が集うクラブとして知られる、社団法人「日本山岳会」。今年5月にこの会の新会長に就任された尾上昇さんは、これまで数々の遠征隊の総隊長を務められてきました。また株式会社尾上機械の代表取締役や、各種公益法人の役員としても、その辣腕ぶりを発揮されています。今回の卒業生インタビューは、石井学部長と尾上さんによるスペシャル対談と単独インタビューの二部構成。学生諸君にお二人の熱きメッセージをお届けします。

“マネジメントに長けた男”
ということで白羽の矢が立った

石井学部長（以下、石井）：このたびは日本山岳会の会長ご就任おめでとうございます。いろいろご苦労も増えていくと思いますが、ぜひとも日本の山岳会をさらにリードして行ってほしいと願っています。



尾上会長（以下、尾上）：ありがとうございます。今日は先生にお会いできるということで、とても楽しみ

にしていました。

ご存知のように、日本山岳会はわが国初の山岳クラブとして1905年（明治38年）に設立され、国内外で多くの登攀記録を残すとともに、会員のクラブライフはじめ、山登りを通しての文化活動、自然保護活動、出版や講演活動など、幅広く社会に貢献してきました。会員数は約5,500名。全国に28の支部があります。

会長という立場に立ったからという訳ではないのですが、これからの地球環境問題を考えてみても、日本山岳会が担うべき役割は少なくないと思っています。

石井：この山岳会は世界的に、日本を代表するアルパイン・クラブとし

て広く知られていますが、尾上さんが就任されてどんな感想をお持ちでしょう。

尾上：代々この会長職というのは、高名な登山家と同時に財界や企業のトップ、科学者、文化人など日本を代表するまたリードしてきた人たちが長く務めてきており、それなりに名誉と権威がありました。ですから、突然私に会長になってくれと言われたときは驚きというより、私にできるのか、また務めていけるかどうか…と不安が先に立ちましたね。

実際、会員の高齢化や山岳会としてのこれから進むべき方向性、どうすればより魅力ある山岳会にしていけるかなど、現在解決しなければならない問題が山積

して、トップマネジメントの重要性が求められてきています。

こういったこともあり、自分で言うのも何なのですが、これまで数々の遠征隊の総隊長という、いわばまとめ役としての実績、また名古屋での会社経営やさまざまな公益法人の役員としての活動実績などから“マネジメントに長けた男”として白羽の矢が立ったのだと思います。

中には“品格あるクラブなのに、なんでお前なんだ”と笑っている先輩もいますがね。まあ、日本山岳会にとってはひとつの大英断だったと思いますね。

右は部室, 左は学校, もちろん右方向が多かった

石井：そうですね、大英断ですか。しかしリーダーたるもの、いつ何時もさまざまな重荷を背負っていかねばならないのは当然といえば当然なんですね。ますますのご活躍を大いに期待しております。

ところで学生時代はどんな学生で



したか。私より4年ぐらい後の卒業だと思いますが、昭和41年頃ですかね、あの頃はまさに高度成長期の最中。東京オリンピックが開催されたこともあり、世の中全体にパワーがみなぎってた時代でしたね。

尾上：確かに、いちばん元気があった頃ですね。思い出すのは、1年生の時、正直言ってあまり勉強した記憶がないんですよ、かといって遊んでいたわけじゃない。パワフルに山にこもっていたというか、生活の中心に山があった感じです。

本八幡の下宿先から電車で、東へは津田沼方面つまり学校側、西は水

道橋方面で体育会山岳部の部室側、今日はどちらの方向の電車に乗ろうかと…おのずと右向行きの電車に乗ることが多かったですね、やはり。

というわけで、私、1年生を2回やらされました。1ヶ月ぐらいの春山合宿から帰省したところ、学校からの通知をみたら何と1年生をやり直しなさい！と書いてあり、さらによく見ると取得単位が無し、全部取り消しです！これには2度ビックリ。

ですからその後はもう必死ですよ、で4年生というか5年生というか、卒業時は卒論と数単位だけで済みまして、余裕で卒業できました。山岳部にも5年在籍できたので、ホント、おかげさまでとても充実した山登りができましたね。

また思い出すのは、野本先生の研究室で学んでいたことです。経営に関して多々教えていただいたことが、今日の私に大きく影響しており、とても感謝しております。この研究室の仲間とは今でも親交があります。

訓練のための、山登りはありえない

石井：なるほど、長けたマネジメントの持ち主といわれるのも、ベースはここにあるわけですね。



1966年 日本大学第2次グリーンランド登山隊。往復約300km・50日にわたる白夜の中の人引きソリによる氷河の旅(先頭が尾上氏)。



1966年 日本大学第2次グリーンランド登山隊。7月24日ベースキャンプ到着(右から2人目が尾上氏)。



1966年 日本大学第2次グリーンランド登山隊。7月27日、マウントフォーレル峰(標高3,360m)の頂に立つ尾上氏。

いま生産工学部は、高い目的意識を持った学生に対しての環境的支援はもちろん、目的意識の不明確な学生に対してもきちんと向き合い指導・支援を行っています。重視しているのは、学生の目線に立った対応、自信を持って自分を語れる学生を育てること。つまり「学生中心の大学」であることが重要だと思っています。



株式会社 尾上機械 代表取締役
社団法人 日本山岳会会長

尾上 昇

PROFILE

昭和18年、名古屋生れ。昭和41年、日本大学理工学部経営工学科(現/生産工学部)卒業後、株式会社 尾上機械入社。昭和63年に代表取締役となる。その後、社団法人 日本山岳会東海支部支部長、名古屋大須ロータリークラブ会長、財団法人 東海交通遺児を励ます会評議員、社団法人 日本山岳会評議員、社団法人 日本食品機械工業会会長、日本食品工学会副会長、そして平成21年5月、社団法人 日本山岳会会長に就任。現在、桜門山岳会(日大山岳部OB)会員、社団法人 日本・ネパール協会会員、ヒマラヤングリーンクラブ副理事長、HAT・J評議員、社団法人 日本山岳協会参与、スペシャルオリンピックス日本・愛知会員など、数々の要職を兼務。平成18年春「藍綬褒章」を受章。

1970年 日本山岳会東海支部マカールー学術登山隊。ポーター40人によるキャラバン、雪のシプトン峠越え。



1970年 日本山岳会東海支部マカールー学術登山隊。CIIからCIIIへ向かう。



尾上さんの時代はいかがでした、リベラルというか民主的というか、大学にはそんなところが今より強いものがあったと思うのですが。

尾上：そうですね、今よりあったと思います。現在の学生と比べて考えてみても、もっとほっとらかしというか…でも、何でもやらせてくれるという環境は確かにありました。

リベラルという意味では特にそれを強く感じたのは、やはり山岳部ですね。たとえば1年生は、荷物を多く背負わされたり、水を飲ませてもらえなかったり、コンクリートブロックを背負った訓練など…他の大学ではあったようですが、日大山岳部ではまったく無かった。冬山では1年生が一番軽い荷物でしたし、夏山でも水も好きに自由に飲めたし、しごかれたこともありませんでしたね。

技量、技術、体力が無い1年生にとっては冬山はキケンで登れませんからね。そこには“訓練のための山登りはありえない”という風潮、考え方が根強くあったからなんです。まさに民主的というか、リベラルな山岳部だったと思います。それに部員の多くが、合理的に物事を考える理工系だったこともあるかもしれませんね。

どうやって安全に下るか、そこに全精力を使う

石井：つきなみな質問で恐縮ですが、なぜ山に登るのですか。

尾上：イギリスの登山家ジョー

ジ・マロリーは、こう言っているんですね、『そこに山があるからだ (Because it is there)』と。もちろん皆さんご存知ですね。こう答えた彼の思いを私なりに解釈すると、困難にぶち当たることは特別なことではなく、ごく当たり前のこと。その裏側にある、乗り越えるために必要な自身の強さ、乗り越えたときの喜びがあまりに魅力的、となる。達成感というか、プロセスが苦ければ苦しいほど、難しければ難しいほど、克服したときの喜びは登った者しかわからないものなんです。とはいえ、決して危険を冒して登るわけではありません。絶対生きて帰るんだという強い気持ちを持ち、そのために万全の準備を整えます。実際に、頂上に立っても握手するだけで、喜びはあまり湧いてこないもの。さあ、どうやってこれから安全に下るかに全精力を使うんです。そしてベースキャンプに戻ったとたん、ホッと…とたんにアドレナリンが体中を駆けめぐります。まさに、ヤッタ！ という充実感に満たされるんです。それで下界に戻りしばらくすると、“さて、次はどこに行ってもやろうか”という気持ちが





1970年 日本山岳会東海支部マカールー学術登山隊。ベースキャンプから望むマカールー峰（標高8,463m）。



2003年 日本山岳会東海支部冬季ローツェ南壁登山隊。ベースキャンプで登山の安全を祈願。2006年、3度目の挑戦で南壁初完登。総隊長を3度務める。

またムクムクと湧いてくるんですね。これって、山登りの性なんでしょうね、きっと（笑）。

石井：ところで、お仕事の方はいかがですか。何かと厳しい世の中、こちらのかじ取りも大変なのでは。

尾上：ご心配いただき、ありがとうございます。おかげさまで仕事に関しては、一步一步着実に進んでおります。

仕事の内容は、祖父の代から受け継ぎました食品関連産業のプラントエンジニアリング。主には家畜や養魚、ペットフードの配合飼料、原料から製品作りまでエンジニアリングしています。いま食製品に対して

は、以前にも増して社会ニーズというか消費者ニーズというか、確かに厳しいものがあります。当社では、こうしたニーズに確実にこたえるべく、「安全・安心・衛生」をキーワードに国内の食生活を支えるプラントエンジニアリング企業として、これからも成長できるよう、しっかりとかじを取っていかうと思っています。また来年は創業100周年にあたり、これまでとはひと味違う新製品の開発に取り組んでいます。

石井：本日はお忙しい中、ありがとうございました。さらなるご活躍を期待しております。

※文中登山写真提供：尾上昇氏。



日本大学生産工学部 学部長
日本大学 副総長
機械工学科 教授・博士(工学)

石井 進

interview

日本山岳会におじゃまし、さらにお話をお聞きました。

山岳部OBとして、これだけはぜひ、話しておきたいことはございますか。

尾上：日大山岳部の素晴らしいところは、オールラウンドなところ。藪山もいい、スキーもいい、岩登りもいい、縦走もいい、つまり山というのは固定観念で登る必要は無いんです。とにかく山というラウンドに対峙し、しっかりと自分を見つめ、そして山に受け入れてもらえるために、ありとあらゆる技術を磨いていく。これがオールラウンドな山登りの楽しみ。オールラウンドな山登りこそ、学生らしい山登りというのでしょうか。

私の頃は、1年生から山スキーをやらされましたが、聞くところ他の大学ではほとんどやっていない。山の魅力、たっぷり味わってほしいですね。



最後に、これから社会に出る後輩にアドバイスををお願いします。

尾上：学生の間 “これだけは他人に絶対負けない” というものを極めさせていただきたい。勉学に精通するのは当然として、それ以外のプラスαの部分ですね。部活、文化活動、運動、研究、遊びなど、何でもいいんです。自分が誇れるものをつかみ、身につけてほしい。兎に角無味乾燥の4年間だけは、過して欲しくないということです。大きな財産となり、社会に出ても必ず役立ちます。それ

に“何でも語り合える友人”。こうした友人との思い出は貴重なもの、励まし励まされ、後々になっても充実したつき合いができるんですね。生産工学部の学生のみなさん、がんばってください。

取材後記

○高校時代は剣道二段の腕前で、学校が愛知県代表となったこともあるんですよと語ってくださった尾上さん。「一時は大学でも剣道をやろうと思ったのですが、僕よりスゴイのがいっぱいいるじゃないですか。レギュラーはムリかも…」と断念。そこで「元々山好きだったこともあり、山岳ならレギュラーもホケツもないですからね」と。それ以来、山の世界に入りこみ、いまでも月に数回は近郊の山を縦走するとか。日本山岳会会長そして会社経営、団体役員と、多忙をきわめる尾上さん。笑顔で語られる中にも、ぶれない芯の強さ、青春の瞳を持ち続けていらっしやるのがとても印象的でした。

風力発電コンペ WINCOM 2009 開催のお知らせ

平成21年9月6日(日)

今年も、日本大学生産工学部は「ものづくり」の素養とデザイン・アイデアに富んだ環境エネルギー機器の性能を競う「第2回風力発電コンペ WINCOM 2009」を開催します。

このコンペは、高校生をはじめ、大学生・社会人のグループ、個人が独自の発想で風力発電機を作り、「ものづくり」の楽しさを味わうものです。

昨年以上に今年も、すばらしいアイデア、ユニークなデザインの作品で会場は盛り上がることを期待しています。

学生諸君や市民の皆さんをはじめ、多くの自然エネルギーに興味ある方々の見学と声援を歓迎します。

**第2回風力発電コンペ
WINCOM2009
参加校募集!!**

開催日：平成21年9月6日(日)

主催：日本大学生産工学部
協力：環境シンポジウム千葉会議実行委員会
後援：日本大学生産工学部校友会、日本風力エネルギー協会
日本機械学会関東支部千葉ブロック、千葉県環境評議会
千葉県総合教育センター
会場：日本大学生産工学部津田沼校舎

参加までのながれ

第2回風力発電コンペ「WINCOM2009」
URL: <http://www.cit.nihon-u.ac.jp/wincom/>
日本大学生産工学部第2回風力発電コンペWINCOM2009事務局
TEL/FAX: 047-474-2461
E-mail: cit.wincom@nihon-u.ac.jp

主催：日本大学生産工学部
協力：環境シンポジウム千葉会議実行委員会
後援：日本大学生産工学部校友会、日本風力エネルギー協会、
日本機械学会関東支部千葉ブロック、千葉県環境評議会、
千葉県総合教育センター
期日：平成21年9月6日(日)
会場：日本大学生産工学部 津田沼校舎
<http://www.cit.nihon-u.ac.jp/syomu/8-traffic.html>

《概要(抜粋)》

■応募資格

- (1) 高校生のグループまたは個人(指導教員の許可を得る)
- (2) 大学生・社会人のグループまたは個人のオープン参加

■風車製作について

1. 風力発電装置の寸法

- (1) 両部門とも架台も含めて高さ80cm、幅80cm、奥行き80cmの寸法内に収まること。
- (2) 装置は架台も含めて重さ20kg以下とする。また、装置には上方偏向、電磁ブレーキなどシステムを含め、安全性を十分に考慮する。

2. 材料

- (1) 使用する材料については、特に制限はなし。
- (2) 高校生の発電量部門は競技の公平を期するために、下記の項目(1)を満たす自転車用発電機とし、システムの型式等についての規定は特になし。

■競技方法

【発電量部門】

- (1) 自転車用発電機は時速15kmの時に定格出力に達するもので、JIS規格品とする。
- (2) 抵抗には15オームのマンガニン線を用い、計測は指定された場所に発電装置を設置する。

【競技の説明とルール】

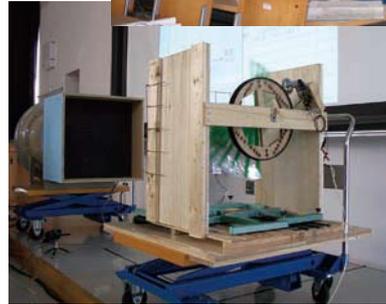
- (1) 風力発電機を主催者の用意した送風機で運転させ、発電する発電量により競う。風速を2~7m/sで1m/s刻みで変化させ、各風速における発電出力量を計測。
- (2) 競技委員が危険と判断した場合は測定競技を中断する。
- (3) 風車の高さは、その中心と送風機の吐出口中心が等レベルとなるように工夫する。
- (4) 主催者側のパソコン計測システムを用い、その積分値を求めた発電量とする。同じ発電量であれば、風速の低い方で定格に達したチームを高く評価する。
- (5) 起動性の低い風車の場合は、起動時は手で力を加えることを認める。
- (6) 発電量が定格に達したとき、その時点で計測は終了し、その後は定格出力を記録とする。

■表彰

最優秀賞(30万円)1チーム、優秀賞(10万円)3チーム、他にデザイン賞、アイデア賞の表彰をいたします。尚、最優秀賞は高校生の発電量部門のみとします。



緊張の一瞬!



ユニークな
アイデアが
いっぱい!

高校生も
がんばりました!



Campus Report

学生ものづくりプロジェクト支援助成金事業の中間報告

「2009年度学生ものづくりプロジェクト」で行っている「鳥人間コンテスト滑空部門優勝プロジェクト」で、今年度も新たな滑空機を作成し、7月12日早朝にテストフライトを実践キャンパスグラウンドで行いました。残念ながら今年度は鳥人間コンテストが開催されませんが、次年度の大会に向けて新型滑空機の試験を行いました。

昨年度までの経験を生かし、高速型の主翼を採用しています。また、垂直尾翼も可動式となり、風向きに合わせて最適な飛行経路がとれるようになりました。9月には、静岡県の砂丘で今年度の目標である滑空距離計測を行う予定です。



テスト中の新機体「疾風（はやて）」

SPRING

スタートした



環境安全工学科



環境安全工学科：持続可能な社会生活のために、環境・安全・エネルギーを理解する横断的な知識とインターナショナルコミュニケーション能力がある技術者の育成を目的とし、●製造物の安全性確保とその責任、●事故の未然防止／事故後の安全確保とその復旧、●有害排出物の抑制など環境負荷を抑える社会環境、●低環境負荷エネルギーを獲得／長期安定なエネルギー需給情勢を洞察できる能力—などを学ぶ。

4月にスタートした環境安全工学科と創生デザイン学科。授業も順調に進み、雰囲気になれることで精一杯だった学生たちも緊張感が取れ、それぞれの課題に取り組んでいます。今回はお二人の先生に、学科の現状と今後の展望を語っていただきました。

はじめに、スタートした学科の現状についてお聞かせください

越川教授（以下、越川）：まず両学科の位置づけなんですけど、大きくは21世紀にふさわしい環境やモノづくりに対し、今後どうあるべきか、どうリードしていくか、こうした時代の要請ともいえる問題に取り組み、より向上させるパワーを備えた人材の育成を目的に創設されたんですね。

私の学科では、学生と教師とのコミュニケーションをしっかりと図れるよう14～15名単位のグループに分けて授業を行っています。“自然との共生と安全社会をめざす”が当学科のキャッチフレーズ。いま、それを目指す意義を

説明しているところです。

日高先生のところはどうですか。

日高教授（以下、日高）：私の学科でも15名程を1グループ単位に分けて授業を行っていて、グループ単位に専任の教員をつけているんです。学生たちの相談事にのれるようにと、まあ兄貴分みたいなもので、学生たちも気軽に話しかけてきますね。

当学科のテーマは“アートとテクノロジーの融合”。ユニバーサルデザインなどにみられるように、人に環境にやさしいものづくり、こうした21世紀に求められるデザインとは何かを中心にいま取り組んでいる最中です。

学生たちの学習への取り組みや意欲はどうでしょうか。

越川：率直に言って、意欲的な学生が多いな～と驚いていますね。新しい学科ということで、スタート前、学生一人ひとりの学習に対するモチベーションをどう高めていけばよいか思慮していました。ですが、スタートしてみる

ところだとも思いますが、なぜか、それは入学動機がかなりクリアというか、環境や安全、エネルギーなどに対する問題意識や理解志向を皆持ち合わせて入学してきたんですね。おのずと勉強にも力が入るわけなんです。

こうしたモチベーションの高さに驚いていると、日高先生も先日話されていましたよね。

日高：そうなんです。私が考えていた以上にまじめというか、意欲的なものを感じますね。ものづくりやデザインに対する興味や志向が、皆はじめから高いものがあります。

ですがいまデッサンの授業で、戸惑いを感じてる学生もいるのも確かです。それは高校時代にやってきたかやってこなかったかで、そういう時に私は“気にするな、画家や彫刻家になるわけじゃないんだよ”と言っているんです。ですから実際、基本能力に差があるとは思っていません。あきらめずに、いかに粘り強く続けていくかが大



環境安全工学科 教授・博士（工学）

越川 茂雄

- 主な研究テーマ
- ・環境資源材料に関する研究
- ・エココンクリートに関する研究
- ・コンクリート構造物の環境を考慮したアセットマネジメント型維持管理手法に関する研究

REPORT

2つの新学科



創生デザイン学科：「使い手」「社会」の立場に立った“ものづくり”ができ、しかも“ものづくり”の幅広い知識を基盤として、全体像を把握し、全体的なデザインができる、「工学の基礎」を身につけた「デザイナー」や「コンセプター」を育成することを目的とし、●アートとテクノロジーがバランスした「やわらかい工学」がデザイン力を高め、今後のデザインを支える一などを学ぶ。



スタートした新学科の現状と展望を語る越川教授(左)と日高教授(右)。



切なことで、その根底にあるのは「好きになること」が一番。これしかないと思っています。

今後の授業については、どのような方針をお持ちでしょうか。

越川：地球環境、国際社会、テクノロジーという観点から、“持続可能な社会の構築”を理念に、生産工学の素養を持つサステナブルエンジニアリングコーディネーターと、社会科学の素養を持つバランスエンジニアの人材育成を目指すのが当学科の役割。前期はもとより後期もそれぞれの企業のプロに来ていただき、実際にどういう仕事をしているのか解説する特別講義を予定しています。現状は今どうなんだ、その対処法は、今後どうすればいいんだ…など、実際に学び・体験し、頭だけでなく肌で修得してもらおうと考えています。

2年次後期には学生それぞれの将来の目標に合わせ「環境安全コース」「環境エネルギーコース」に分かれることにより専門的な知識・技術の習得に入ってい

きます。また、4年次には、自然との共生と安全社会のための法令、規則、基準などと技術の計画、実施と実施後の社会的安全性を学ぶ全く新しい学問である「法工学」を開講します。

日高：当学科の役割はアートとテクノロジーの融合をテーマにした、使い手や社会の立場に立った“やわらかい工学”を身につけたデザイナー・コンセプターの育成。後期になると、表現したいことをどういうカタチで、どんな材料で…と立体を扱っていきます。デザインされたものには、必ずプロセスがある。どういうプロセスで最終的に“もの”として存在し社会に出てくるのか、その論理的な習得をと考えています。

こうした意味も踏まえ、越川先生のところと同じように、現場を知っている方に直接来ていただくこうと思っているんですね。例えばカメラ、専門的にカメラを使う人とつくる人(技術者)では、カメラに対する想いや意見がそれぞれある。デザインしたりコンセプトを考えるには、両方の想いや意見を具体的に知ることが大切で、学生には刺激になると思うんです。

最後に、卒業後の進路についての抱負をお聞かせください。

越川：私たちの身の回りは、環境基本

法、国際規格、炭素取引、環境税など問題山積です。こうした問題一つとっても、これからの企業の成長にとっては環境・安全を抜きにして考えられないものばかり。

ですから、解決策を備えた人材の重要性は増すばかりで、新たなビッグビジネスもどんどん出てくるものと確信しています。こうした点でも私は自信を持っていえますね、出口(進路)は広く大きいと。

日高：同じように、これからの時代、環境や安全安心といった問題と工学的思考をいかにバランスよく加味させていけるかが、必要とされる人材と考えています。したがってバランス感覚を備えたデザイナーやコンセプターの活用が、ものをつくる企業にとってますますポイントになってくると思います。

将来の活躍の場は、日本のみならず世界中のすべての企業にあるといっても過言ではありませんね。

一本日はお忙しい中、ありがとうございました。



創生デザイン学科 教授・修士(工学)

日高 単也

- 主な研究テーマ
- ・環境造形を主題とするスペースデザイン作品の制作に関する実験的研究
- ・デザインプログラムを用いたデザインシステムに関する研究

平成20年度学位取得者一覧

次の方々が平成20年度に博士の学位を取得されました。今後のご活躍を期待しております。

課程修了によるもの

専攻	学位	氏名	論文題目	学位授与大学	授与年月日
機械工学専攻	博士(工学)	仲間 大	摩擦肉盛および摩擦攪拌プロセスによる軽金属材料の表面改質に関する研究	日本大学	平成21年 3月25日
土木工学専攻	博士(工学)	木科 大介	生物化学的実験手法による2段階メタン発酵の効率化に関する研究	日本大学	平成21年 3月25日
土木工学専攻	博士(工学)	濱田 龍寿	水撃圧を用いた藍藻の不活性化とバイオマス利用に関する研究	日本大学	平成21年 3月25日
建築工学専攻	博士(工学)	大村 敏	居住者の意識特性からみた木造密集市街地における住居の建替えの可能性に関する研究(東京都中野区野方1・2丁目におけるケーススタディ)	日本大学	平成21年 3月25日
建築工学専攻	博士(工学)	河合 康統	千葉県における建設副産物の施設立地特性と流通プロセスに関する研究	日本大学	平成21年 3月25日
建築工学専攻	博士(工学)	杉本 弘文	集住による生活・居住環境に関する研究(モンゴルにおける遊牧と定住の生活実態からみた考察)	日本大学	平成21年 3月25日
建築工学専攻	博士(工学)	多田 豊	地域公共施設の再編成に係るコミュニティ基幹施設の建築計画に関する研究	日本大学	平成21年 3月25日
建築工学専攻	博士(工学)	山田 悟史	超高層住宅の集住体における居住者の環境認知に関する研究	日本大学	平成21年 3月25日

論文提出によるもの

専攻	学位	氏名	論文題目	学位授与大学	授与年月日
電気電子工学専攻	博士(工学)	内田 暁	タスク・アンビエント照明における作業面上の影の特性を考慮した照明設計に関する研究	日本大学	平成20年 12月1日
電気電子工学専攻	博士(工学)	東條 伸一	運転履歴を考慮した油入変圧器の寿命損失に関する研究	日本大学	平成20年 12月1日
建築工学専攻	博士(工学)	亀井 靖子	郊外建売団地の住戸改変と植栽形成に関する建築計画的な研究	日本大学	平成20年 12月1日
建築工学専攻	博士(工学)	北野 幸樹	近隣空間における余暇活動と余暇関連施設に関する研究(住宅団地を中心とした大都市近郊地域と地方小都市市街地域との比較を通して)	日本大学	平成20年 12月1日

もっと BikaBika 生産工



ドラッグは絶対ダメ!の巻 画:さとう ゆき



研究最前線

「地域連携研究プロジェクト」



研究が進められている津田沼校舎32号館
(ハイテク・リサーチ・センター)。

平成20年度に文部科学省より採択された「地域連携研究プロジェクト」。テーマは、地域生活に安全・安心を与えるための建造物の高耐震化・再生技術とヘルスマonitoring技術の応用に関する研究。4グループから成る本プロジェクトの研究代表者、木田教授に研究の最前線を語っていただきました。

強く望まれる「建設資材の再生化技術の開発」。

—はじめに、プロジェクト発足の経緯をお聞かせします—

ご存知のように、日本は有数な地震多発国であり、最近でも内陸直下型地震の頻発により、尊い人命の損失をはじめ住宅などの貴重な財産の損失が続いています。

また現在、地球規模で課題となっている温暖化の要因とされるCO₂の削減など、さまざまな環境問題が顕在化してきているのが、近年のわが国の状況です。さらに、最新の高強度炭素繊維を有効に活用することが省材料化になることから期待されているのです。こうしたことから緊急課題として、有限な資源の効率的かつ有効的な活用のための「建設資材の再生化技術の開発」が強く望まれています。

地域生活に、安全と安心を与えることが主目的。

—現在、具体的な取り組みは—

資材の再生化技術の開発と同時に、いま望まれている技術開発があるのです。それは、自然災害時における避難場所として活用される道路・鉄道をはじめ、公民館や体育館などの社会基盤施設などの損傷状態をリアルタイムにモニタリングして、その情報を一刻でも速く地域住民に知らせられる“ヘルスマonitoring技術の開発”なのです。この技術開発は、地域住民にとって安全はもとより、安心を与える上で大きな役割を担うものであると考えます。

本研究プロジェクトでは、千葉県で主に事業活動を展開している企業および地方公共団体と密接に連携をとりつつ、建造物の高耐震化はじめ、資源再

生化とヘルスマonitoring技術の応用に関する分野の研究を推進して、「千葉5S (Safety, Security, Stability, Safe and Sensing) モデル」を確立することによって、地域生活に安全と安心を与えることを目的としています。

付加価値の高い技術で、地域経済の活性化に貢献。

—研究が行われる32号館の役割は—

このプロジェクトにおける研究分野は、①超高強度繊維補強コンクリート (UFC) および炭素繊維 (CF) を用いた公共構造物の部材と安全性と再生化技術に関する研究。②経年戸建住宅の耐震基礎補強および地下埋設パイプの漏洩防止と健全性評価技術の確立。③再生骨材とごみ溶融スラグを利用し





■走行振動試験装置
(500kN)

輪荷重による鋼道路橋床盤及び鉄筋コンクリート部材の、耐荷力、疲労寿命、動的影響、コンクリート劣化等の実験に使用します。

■ナノ粒子含有パイプ材評価システム

円筒形状の地下埋設樹脂パイプの材料特性の計測はじめ、樹脂成形時の圧力、体積、時間の関係を精度良く測定します。



左から阿部教授、櫻田教授、木田教授、邊教授、星川教授。

た鉄筋コンクリート建築構造物の再生化技術の開発。④ヘルスマonitoring技術の建設構造物および地下埋設構造物への応用開発。この異なる研究の4分野は、最先端機器が導入されたここ

32号館で、各研究者が日々研究を進めています。さまざまな分野の研究が集中する32号館、ここはまた国の幾つかの分野の研究事業の一大研究拠点になっていますよ。

いま公共事業の削減など厳しい経済状況下にありますが、本研究プロジェクトの役割として、研究成果となる付加価値の高い応用技術が新たな事業展開を可能にすると同時に、地域経済の活性化に多に貢献することに期待しております。そして、この「千葉5Sモデル」が全国の各地域に広く展開されることを切望しています。

●研究グループ1

研究グループ1では、公共構造物の部材の安全性と再生化技術に関する研究を進めています。本学部で開発された本邦唯一の「走行振動試験装置」を用いて、高速道路の床部などを形成している鉄筋コンクリート部材の走行振動荷重および塩害作用による劣化をモニタリングしています。同時に、新素材の超高強度繊維補強コンクリート(UFC)、炭素繊維(CF)による適切な補修・補強および新構造の開発も進めています。またこれら新素材を用いた構造物の耐荷力性能の評価、次世代の補修・補強方法も明らかにしていきます。

スタッフ：木田哲量(生産工学部 学部次長 土木工学科教授)
(学内) 阿部 忠(土木工学科教授) 澤野利章(土木工学科教授)



●研究グループ2

研究グループ2では、経年戸建住宅の基礎に炭素繊維強化プラスチック(CFRP)材を埋め込む高耐震化技術の推進。また各種機械の回転軸の軽量・高剛性化、耐震性、省エネルギー、熱変形を起こさないCFRP製回転軸の開発を行っています。さらには、光ファイバーおよび導電性ナノ粒子などのヘルスマonitoringセンサーを内蔵させた地下埋設FRPパイプの成形技術を確認し、損傷検知を充実させたシステム開発。ならびに、地下埋設パイプの安全性確保の確立する研究に力を入れています。

スタッフ：邊 吾一(機械工学科教授)
(学内) 高橋 進(機械工学科教授)



●研究グループ3

研究グループ3では、建設工事で発生するコンクリート塊から再生骨材を製造し、鉄筋コンクリート構造躯体へ再利用することで、コンクリート塊を資源として有効活用する技術を研究しています。また、地域の清掃工場から得られるごみ溶融スラグを再生骨材と併用し、再資源化された一般廃棄物の建築構造物への利用技術の開発研究も行っています。この研究が実現すれば、一般廃棄物が貴重な資源として生まれ変わり資源循環型社会が形成され、連動して建設業など地域経済の活性化が可能となります。

スタッフ：櫻田智之(建築工学科教授) 小松 博(建築工学科准教授)
(学内) 師橋憲貴(建築工学科准教授)



●研究グループ4

研究グループ4では、地域社会の安全・安心を目指し、地域産業の活性化に資するヘルスマonitoring技術の確立を目指し研究を推進しています。ヘルスマonitoring技術は、常時建造物の健全性を監視する技術であり、光ファイバーを人間の神経に見立て、センサ機能を有する光ファイバーを建造物に埋込・接着しその状態(健全性)の監視技術の開発を行っています。また、炭素繊維強化プラスチック等の損傷を短時間で高性能に検査する技術開発を行っています。

スタッフ：星川 洋(電気電子工学科教授)
(学内) 小山 潔(電気電子工学科教授)



数理情報工学科

千葉県内情報系大学合同による
第1回卒業研究発表会開催

(社)千葉県情報サービス産業協会(CHISA, 145団体加盟)と千葉県商工労働部主催による第1回卒業研究発表会が、去る3月13日(金)に幕張ワールドビジネスガーデン・マリブイーストの会議室で開催されました。



本発表会は産官学の交流の一環の場として企画されたもので、情報通信関連技術及び開発・管理手法等に関して4大学から9件(本学から3件、表参照)応募されたテーマにより、各20分の講演と質疑応答が活発に行われました。他大学の学生からは鋭い質問、そして企業側からは日頃と視点の異なる質

問や関連研究のアドバイスが行われ、発表終了後には賞状と盾を戴きました。

発表後は懇親会が行われ、学生ならび指導教官も交えて同じ情報系の他大学や企業担当者と情報交換がなされ、将来は官公庁からの共同研究を受託したいとの希望が語られました。CHISAは数年前か

ら毎年30数名の生産実習の斡旋や2月には学内で就職セミナーを開催し、数名が就職して生産工学部と地域の情報サービス産業企業との密接な結びつきがさらに深まりつつあります。本年度も開催が予定されているので、秀逸な卒業研究の応募が期待されています。

日本大学生産工学部
数理情報工学科

川島 佑太	周波数選択性を有する非線形フィルタによるロバストな画像処理
池ヶ谷 辰哉	地理情報システムによるわが国の陸上ならびに沿岸域の風力エネルギー利用可能性
峯 和也	並列PS3システムの構築及び性能評価

他大学からは千葉工業大学、東京電機大学及び東京情報大学より各2件ずつ6名により発表されました。

土木工学科 野牛弘太君, 「U19フロアボール世界大会」に 日本代表ゴールキーパーとして出場



土木工学科 マネジメントコース 1年

野牛 弘太 君

土木工学科1年の野牛弘太君が、5月にフィンランドで開催された「U19フロアボール世界大会」に日本代表のゴールキーパーとして出場。本場北欧の強豪チームと対戦し、一回り大きくなって帰国しました。学業とスポーツに打ち込む野牛君に話を聞きました。



リーグ戦でゴールキーパーとして活躍する野牛君。



世界の壁は厚かったが 世界大会は貴重な体験だった

フィンランドで5月4日から約10日間の日程で開催された今年のU19フロアボール世界大会。アジアからは日本、アメリカ大陸からカナダ、そして本場北欧の並み居る強豪を相手に日本は満足な結果を残せませんでした、「日本では体験できない世界のレベルを体験できた貴重な大会でした。自分たちがこれからやらなければならないことが見えてきた、とても有意義な大会でした」と野牛君は語る。



大会の参加メダルと記念グッズは野牛君の宝モノ。

苦しくても熱中できるから 勉学とスポーツの両立を続ける

大学生活1年目の野牛君は、教養・基礎科学科目の授業で多忙な時だ。加えて、世界大会出場のため1週間学校を休んだこともあり土曜日の補講も受けている。

「フロアボールの練習は週に2回、日曜は試合で、遊ぶ時間がほとんどありませんが目標ができたこともあり楽しいです」と、片道2時間の通学にもへこたれない。「将来は、フロアボールの仲間を集めて、生産工学部にサークルやクラブを設立できれば最高です」と、元気に夢を語ってくれました。

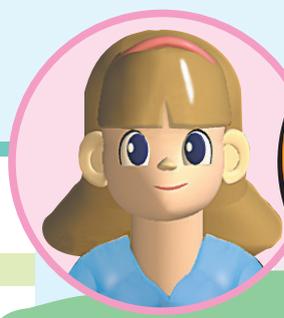
競技終了後にカナダの選手からプレゼントされたサイン入りユニフォーム。

野牛君ガンバレ!!
みんなで応援しよう!!



頑張るキミを/
とことんサポート!!

学生課



ミモミの
ちょい★
その3



3回目の「ミモミのちょい★」は、陰に日向に学生生活全般を支える、学生課を紹介。奨学金の取り扱いからスポーツ大会の開催指導まで、私たちが力強くサポートしてくれています。今回は課長補佐の中津川さんにお話をお聞きしました。



毎日多くの学生が訪れる窓口対応は、学生サポートの大切な業務。



学生課はどんな仕事を
している部署ですか？



生産工学部学生課は、本学部に通学する学生の皆さんが4年間、或いは6年間安心して学生生活を送ることができるようサポートする部署です。具体的には、健康管理、奨学金の取扱い、通学証明書の発行、サークル等学生団体に関する事項、アパート等物件の公開、厚生施設（セミナーハウス）の利用、購買部・食堂等に関する事項、学生相談に関わる事項など幅広い分野で支援業務にあたっています。

ミ：本当にたくさん業務がありますネ！



中津川さんのお仕事の
内容をお聞かせください。



私は主に学生団体（サークル）とスポーツ大会等学部行事に関する業務に携わっています。本学部には学術・文化・体育の3部門に約65のサークルがあり、全学生の約3割の学生が入会し、課外活動に励んでいます。私は各サークルの活動状況の把握、予・決算の管理、助成金の支出、部室の管理・監督等を行っています。

また、毎年5月開催の「スポーツ大会」や11月開催の「桜泉祭」について、実行委員に対する支援・指導なども行っています。

その他、大学の諸施設の有効利用に

関する業務についても行っています。

ミ：毎日、お忙しいそうですね！



お仕事をされていて、気づくことはありますか？



最近とくに、学生の忘れ物・落し物が非常に多いことです。教科書、ノートなど学習に係るもののほか、財布、携帯電話、ゲーム機などが多いのが特徴です。学生の皆さんには貴重品の管理には細心の注意を払ってほしいですし、物を大事に使ってほしいと思います。

ミ：はい。ミモミも気をつけまーす！



最後にみなさんにメッセージをお願いします！



日本大学の建学の精神は「自主創造」です。学生の皆さんが知的好奇心をもってそれぞれの学問分野に積極的に取り組み、社会に出て即戦力として活躍できるようさまざまな分野で支援をすることが教育機関としての本学の役割です。

縁あって
日本大学



みんなの忘れ物が、こんなにた〜くさん！

生産工学部の門をたたいた学生の皆さんには、本学部が提供するあらゆる教育コンテンツを最大限利用し、知の習得に励んでもらいたいと思いますし、「人間形成」の場として、教職員と積極的に関わり、友人を多く作り、サークル活動等課外活動にも取り組んでもらいたいと思います。そのためには決して「受け身」ではなく、「自ら働きかける」姿勢で取り組むことが肝要です。

皆さんが生産工学部での学生生活を有意義に過ごし、将来、マネジメント能力を兼ね備えたエンジニアとして活躍されることを祈っています。

ありがとうございました。これからも私達のサポート、よろしく願います！



学生課 課長補佐
中津川 和宏（なかつがわ かずひろ）

平成5年日本大学経済学部卒業後、
本学通信教育部教務課、同学生課、
広報部広報課を経て、平成20年
10月より生産工学部学生課勤務。
趣味は水泳・サッカー観戦。

機械工学科

昨年9月に着任致しました。それまでは日立製作所におきまして、原子力機器から半導体素子に至る各種機器の冷却に関する研究開発に携わって来ました。生産工学部には素晴らしい伝統があると思います。

これまでの経験を活かし、高性能伝熱技術など各種熱流体現象の研究や本学部の伝統を踏まえた人材育成に多少なりとも貢献することができれば幸いです。よろしくお願い致します。



教授

松島 均
まつしま ひとし

電気電子工学科

私は平成17年に山形大学大学院理工学研究科の博士課程を修了、その後、東京理科大学理工学部で助教として4年間働いた後、2009年4月に日本大学生産工学部電気電子工学科の助教として着任致しました。専門は放電、静電気応用です。放電、静電気を利用して環境問題に取り組んでいきたいと考えております。授業は電気電子計測と電気電子工学実験IVを担当しております。授業を通して電気の面白さを伝えられるよう全力を尽くしたいと思います。



助教

工藤 祐輔
くどう ゆうすけ

土木工学科

平成18年4月に本学土木工学科の副手に就任し、翌年4月に助手、本年4月より助教として地盤工学や道路工学等を担当しています。

教育と研究を通じ、学生一人ひとりとの対話を大切にしながら、「ものづくり」の楽しさと、「ものづくり」によって社会に貢献する喜びを共感できるよう、互いを高めていきたいと念じています。



助教

加納 陽輔
かのう ようすけ

建築工学科

学部時代から居住空間デザインコースで学び、2009年4月に専任講師として就任いたしました。専門は郊外の建売住宅・団地。めまぐるしい日々の中、学生に助けられながら研究や指導をしています。ちょっとした設計の工夫で、ごくふつうの住宅が長い間愛される住宅に変身することを、学生を通じて多くの人に伝えたいと思っています。そして心地よい空間や美しいデザインが人々の「住」への関心を高めることも……。



専任講師

亀井 靖子
かめい やすこ

建築工学科

学ぶこと、働くこと、暮らすこと…遊ぶこととは？

「生活時間・空間」と「余暇時間・空間」の各々を相互に関係付けて捉え、余暇活動が有する「時間的側面」「空間的側面」「活動的側面」「志向的側面」の4つの関係の側面から、新しい「余暇空間」の概念を体系的に提示しようとしています。時間の流れと共に変容する生活の中の余暇の位置付け、ライフスタイルと調和する余暇環境づくりの観点の基、「遊ぶこと(余暇)」の視点から建築・都市空間を考えます。それは自分の居場所・居心地の良い空間を見つけることに繋がります。



専任講師

北野 幸樹
きたの こうき

応用分子化学科

2009年4月に総合科学研究所所属、生産工学部応用分子化学科の担当教員として迎えていただきました。3月まで大学院総合科学研究科に所属しておりました。専門は環境微生物工学です。物理化学的手法とバイオテクノロジーを併用して、有機塩素化合物、環境ホルモンや油などの有害物質を分解・除去する技術を開発し、汚染した地下水・土壌環境の浄化に役立てることを目的に研究を行っています。趣味はテニスです。



教授(研究所)

矢木 修身
やぎ おさみ

応用分子化学科

平成13年に北海道大学大学院理学研究科を修了し、その後、米国カンザス州立大学へ留学しました。平成14年から平成21年3月まで大阪薬科大学に勤務し、触媒的有機合成に関する研究を行ってきました。有機化学はモノを創る科学であり、知識を基盤とし、想像力を活かした研究分野です。アイデアとエネルギーにあふれる学生の皆さんと一緒に新しいモノづくりに挑戦しようと思っています。どうぞよろしくお願ひします。



助教

市川 隼人
いちかわ はやと

数理情報工学科

電機メーカーの研究所でのモデリング&シミュレーション(M&S)に関する研究開発を経て、昨年9月に数理情報工学科に赴任しました。私がM&Sの対象としているのは、大規模な災害や交通渋滞等、実世界で発生する人が介在する複雑な現象です。このような現象をコンピュータ上に再現し、災害や渋滞軽減等につながる人の意思決定を支援する仕組みに応用するための方法を、学生の皆さんと一緒に研究して実現したいと考えています。



教授

古市 昌一
ふるいち まさかず

数理情報工学科

4月より母校である数理情報工学科の教員として勤務することになりました。これまで自動車会社の研究所で、自動車の振動騒音低減技術に関する研究を20年以上行ってきました。車という「もの」を作る前にその特性を予測することは、効率的なものづくりに必要不可欠です。精度良く予測するには、車の数理モデル(特性を再現する数式)と、使用環境などの情報が重要になります。エンジニアの卵である学生諸君に、数理情報工学を基本とするものづくりの面白さを伝えていきたいと思ひます。



教授

見坐地 一人
みさぢ かずひと

数理情報工学科

日本と英国の大学での教育研究活動を経て、今年4月に数理情報工学科に赴任しました。ロボットに知能を持たせるコンピュータやソフトウェア、人工知能、使いやすいコンピュータ、ロボットや機械と人のコミュニケーションなどに興味をもって仕事をしてきました。今後の主なテーマとして、家庭用ロボット、情報家電や各種センサとコンピュータがネットワークでつながった知的住環境、エンターテインメントと癒しなど、人の生活を豊かにするための情報技術の応用を考えています。学生の皆さんの個性と好奇心を大切に、学部・大学院での学習と研究活動に夢中になれる材料と環境を提供し、共に学びたいと思ひます。

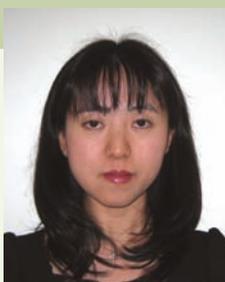


准教授

岡 哲資
おかでつし

数理情報工学科

専門分野は情報通信工学です。これまでは放送事業者や通信事業者などと、新しいコンテンツ流通サービスの実現に向けて、技術的課題の研究と標準化に取り組んできました。現在は、恩師から受け継いだ電気通信による「伝気通心」の実現を研究の核として取り組んでおります。学生のみなさんと共に、国内外で活躍できる技術者・研究者を目指して、勉学および研究に励んでいきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひ致します。



助教

関 亜紀子
せき あきこ

創生デザイン学科

これまで、機械工学を基盤としつつ、ロボット工学分野で研究開発に従事して参りました。一言で、ロボットと言ひましてもその裾野は広く、特に、特殊環境で使用する移動ロボットとマニピュレータに必要な技術(機構のデザイン、各種センサを用いた環境認識、ナビゲーション、自律走行、使用者に配慮した遠隔操縦等)を対象として参りました。今後は、ロボットから日用品まで幅広く、学生の皆さんと共に良いデザインを探究して参ります。



准教授

内田 康之
うちだ やすゆき

教養・基礎科学系

今年の4月から教養・基礎科学系に健康科学系列の准教授として赴任いたしました。専門は生理学で自律神経機能と末梢循環動態を指標とした「心身のコンディション評価」をテーマに研究を行っています。実技領域の専門は陸上競技の走幅跳と短距離です(大学時代、日本大学は最大のライバルでした)。本学では主にスポーツ実技を担当しています。学生諸君に健康管理と生涯スポーツの大切さを少しでも理解してもらえるように頑張りたいと思います。



准教授

菊地 俊紀
きくち としのり

教養・基礎科学系

Hajimemashite. My name is Danica Young and I am from Twinsburg, Ohio, a very small town in America. Thank you for allowing me to teach at your wonderful University. I will do my best! The people I have met here have been great and I look forward to making the most of our time here together. I am very excited to get to know everyone and learn more about Japan during my stay. Yoroshiku Onegaishimasu.



助教

丹尼カ ヤング
Danica Young

教養・基礎科学系

平成21年4月1日付で着任しました。日本大学大学院理工学研究科博士後期課程物理学専攻において磁場閉じ込めプラズマに関する研究で学位を取得した後、東京農工大学工学部の助教および(独)労働安全衛生総合研究所の研究員として、大学における教育と高電圧放電や静電気障害対策に関する研究に従事してきました。今後は、学生と接する機会を積極的に設けて学生との話しやすい関係を築くことに努め、基礎科学教育に力を入れていきたいと考えています。よろしくお願ひ致します。



助教

大熊 康典
おおくま やすのり

教養・基礎科学系

2009年4月に教養・基礎科学系の助教として本学に着任しました。これまで相対論、宇宙論を専門に、ブラックホールや宇宙の創成(ビッグバン、インフレーション)などの研究を行ってきました。学生の皆さんとは物理学関連の講義で接点を持つことになります。出身が関西ですので関西訛りの講義になり、皆さんには違和感を与えるかもしれませんが、物理の楽しさを伝えることができるように、一生懸命頑張りますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



助教

姫本 宣朗
ひめもと のぶあき

教養・基礎科学系

昨年度までの4年間は非常勤講師としてお世話になり、本年度4月より助教として着任しました。専門は数学(応用数学)で、非線形可積分系、特に超離散系と呼ばれる離散力学系(セルオートマトン)の研究をしています。学生の皆さんに、各専門に進んだとき困らないよう数学の基礎をしっかりと身につけてもらうとともに、数学の楽しさを伝えられたらと思っています。よろしくお願ひします。



助教

間田 潤
まだ じゅん

新任教員のみなさん
よろしくお願ひします!



平成21年度行事予定（後期抜粋）

行 事	2～4年次：津田沼校舎	1年次：実初校舎	大学院	備 考
オープンキャンパスⅣ	9月6日(日)			
追 試 験	9月7日(月)・8日(火)			
後 期 ガ イ ダ ン ス	9月12日(土) ※応用分子化学科1・2年のみ9/11(金)・9/12(土)		9月12日(土)	
後 期 授 業 開 始	9月14日(月) ※12/24(木), 1/12(火)は月曜授業を実施			
A O 入 学 試 験	9月19日(土)・9月20日(日)			
卒 業 式 学 位 授 与 式 (9月)	9月24日(木)		9月24日(木)	
創 立 記 念 日	10月2日(金) 振替休校日 ※10月4日が日曜のため			休校
編 入 学 試 験 (2年次・3年次)	10月10日(土)			
学 部 祭 (桜 泉 祭)	11月1日(日)～11月3日(火)			
オープンキャンパスⅤ	11月1日(日)			
指 定 校 制 推 薦 入 学 試 験	11月15日(日)			
外 国 人 留 学 生 入 学 試 験	11月15日(日)			
帰 国 生 入 学 試 験	11月15日(日)			
体 育 推 薦 入 学 試 験	11月15日(日)			
校 友 子 女 入 学 試 験	11月15日(日)			
付 属 高 等 学 校 等 入 学 試 験 (付 属 推 薦 B 方 式)	11月21日(土)			
博 士 論 文 提 出 期 日			11月26日(木)	
学 術 講 演 会	12月5日(土)			
公 募 制 推 薦 入 学 試 験	12月12日(土)			
付 属 高 等 学 校 等 入 学 試 験 (付 属 推 薦 A 方 式)	12月19日(土)			
冬 季 休 業	12月25日(金)～1月8日(金)			
後 期 授 業 終 了	1月13日(水)		1月28日(木)	
補 講	土曜日及び1月14日(木)に適時実施			
大 学 入 試 セ ン タ ー 試 験 (C 方 式)	1月16日(土)・17日(日)			
後 期 試 験	1月15日(金)～1月29日(金)			
修 士 論 文 概 要 (初 稿) 提 出 期 日			1月28日(木)	
入 学 試 験	A 1 方 式	2月1日(月)		
	A 2 方 式	2月9日(火)		
	A 3 方 式	2月19日(金)		
追 試 験	2月12日(金)・15日(月)			
修 士 論 文 提 出 期 日			2月22日(月)	
大 学 院 入 学 試 験 (第 2 期)			3月6日(土)	
転 科 試 験 (2 年 次)	3月8日(月)			
卒 業 式 ・ 学 位 授 与 式	3月25日(木)		3月25日(木)	日本武道館

会計課からのお知らせ

授業料その他の学費は期日までに指定の振込用紙を使用のうえ、下記期日までに納入してください。

前期分＝4月末日

後期分＝9月末日

学費等の相談及び教育ローンを利用される方は会計課窓口まで。

個人情報の取扱い告知文

日本大学生産工学部

入学手続時及び在学中に収集する学生本人及び保証人の氏名、住所、生年月日及びその他の個人情報、学籍・成績管理、教育、学生生活支援、学費の案内、図書館利用、就職支援等及びこれらの業務に付随する学生及び保証人への連絡・通知・掲示等、本大学の教育事業に必要な範囲で利用します。

また、これらの業務の一部を業者に委託する場合があります。この場合、当該業務の委託を受けた業者は、上記利用目的の達成に必要な範囲を超えて個人情報を利用することはありません。

なお、本大学では、学生への教育・指導をより適切に行うため、保証人に対して学生の学業成績及び出席状況等の開示並びに履修状況等についての相談を行う場合があります。

(問合せ先) 生産工学部教務課・学生課



ハア〜い! みんな元気? 夏休みじてルウ〜!
今号は、「ITSビジネス」のお話を聞きに
(株)カントーさんを訪問しました。
ITS=「いつもたいへんなしごと」!?
ちよつと違うかな〜? ミモミも勉強しよつと。

「モノ」と「時代」のパフォーマンスを徹底追求 進化し続ける「ITS」ビジネスの現場!

おじゃまします。生産工学部のミモミです、カントーさんの主な業務は?

ITS&ドキュメントソリューションとして、2事業部体制をとっています。

コンピュータネットワークをはじめIT機器のあらゆる分野をサポートし、ITを活用した経営のお手伝いをさせていただくことをメインにした『ITS事業部』と文書や資料のCD-ROM化、マニュアルやカタログのデジタルプリント、その他様々なコミュニケーションツールの提案等、ソフト面でお客様をサポートしていく『DS事業部』。どちらも企画・提案からアフターサービスまで、お客様にとって最適な情報化オフィスを作るお手伝いをさせていただいています。

ITSビジネスとは具体的にどんな仕事をするのですか?

お客様にとって最適なITソリューションを提案・提供することです。具体的にはお客様の会社を訪問し、商談を進めながらお客様のニーズを聞き出していきます。

一回の訪問で終わることは稀で、何度も訪問する間に「こんなことでお困りなのでは?」「こうすればもっと良くなるのでは?」と考えて情報提供しながらニーズを掘り起こしていきます。お客様のニーズが導き出せたら社内の各部署と連携し、最適なITソリューションを提案します。お客様に納得していただき、商談成立、導入



お話を伺ったITS事業部ITコンサルティンググループの左から塚越主任、光野係長、岡部主任。

ということになります、その後も安心して活用していただけるよう、保守サービスを提供しサポートしていきます。お客様のニーズ導出から提案・導入、その後の保守サービス・アフターフォローまでを私たちはITソリューションビジネスと捉えています。

しかし、お客様のニーズをうまく導き出せばよいのですが、現実には現場で困っていることを聞いて、その手当てをするための商材やサービスを提供しているのが現状ですので、お客様のニーズをきちんと引き出すために、デジタルな知識だけでなく、アナログ的なコミュニケーション能力などもとても大切だと思っています。

毎日世界中のメーカーが新製品を発売していますが、どうやって情報を集めていますか?

全てをリアルタイムに知ることは大変です。また、お客様への訪問なども多いので、それらの情報を日々チェックするのは時間的にも難しいのですが、今はインターネットでの検索やメールマガジンなどで最新情報が確認できるので助かっています。お客様に最適なソリューションを提供するために、社内での情報共有や社外のパートナーとの連携が重要です。

お客様に新製品をなるべく早く提供するために、情報をつかめるようアンテナを張ることが大切です。また、商品だけでなくその情報を提供することもソリューションの一つと考えています。

最近では、デジタルサイネージ(電子看板)や環境対策商品であるLED照明

も取り扱っています。こういった新商材をソリューション提案するために日々情報収集をしています。

今後、この業界はどんな進化(変化)をしていくのでしょうか?

今後将来に向けての業界変化は固く知れませんが、ここ2、3年で考えるとクラウドコンピューティングが中心となっています。新聞やインターネットでもクラウドやSaaSという言葉をよく見かけると思います。インターネットを通じて行われているHTML文書の閲覧やメールのやり取りに留まらず各種アプリケーションがインターネット上を通してサービス提供されています。これからはアプリケーションを購入しなくても、利用した時に必要なアプリケーションやサービスをインターネット上で利用し、利用した分だけ料金を支払う。そんな形態に変わっていくのかもしれない。



最後に、就活を始める学生に一言アドバイスをお願いします!

当社では社員の自己実現の為に人材育成に力を入れ、それぞれの立場や仕事内容に合わせて、さまざまな研修を実施しています。そしてその基本テーマは「コミュニケーション能力」です。ビジネスマンとして一番大切なのは、知識や教養よりもむしろコミュニケーション能力だと考えています。学生である皆さん、今のうちから多くの方と関わり、いろんな事を分かち合い、社会人としての基礎力(コミュニケーション能力)をしっかり身に付けておくことが大切だと思います!

ミ:今回は、どうもありがとうございました!

ショールームでは、ITSビジネスに関連する製品を展示しています。興味のある学生諸君は一度見学してみてください!
詳しくは→<http://www.kantoh.co.jp>



写真上:新製品に対する研修がリアルタイムで行われている。
写真下(3点):プレゼンテーションルーム『IT's MO』

History of CIT

25号館



25号館 (体育館/屋内プール/トレーニングルーム)

体育館、屋内プール、トレーニングルームが収容されている多目的施設。地下1階の屋内温水プールは学生に自由解放されており、トレーニングルームも申し込み制で利用することができます。(トレーニングルームの使用は、トレーニングマシン使用講習会の受講者に限定されています。)

また、体育館内には可動式の座席が設置されており、学部行事やイベント等を行う場合は講堂としても利用できるようになっており、効率的な利用・運営がなされています。



概要

名称: 日本大学生産工学部津田沼校舎25号館
階数: 地上2階, 地下1階
建築延面積: 6,414.95m²
建築面積: 2,563.56m²
完成年月日: 昭和59年4月18日

- ① 25号館
- ② 室内温水プール
- ③ トレーニングルーム
- ④ 体育館・講堂

②

①

③

④

スプリング
SPRING No.93

(日本大学生産工学部だより)

平成21年8月4日発行

編集・発行 日本大学生産工学部 広報委員会

本誌に関する照会その他は下記へお願いします。

〒275-8575 千葉県習志野市泉町1-2-1 日本大学生産工学部 庶務課

電話 047-474-2201 FAX 047-479-2432

E-mail: cit.shomu@nihon-u.ac.jp

www.cit.nihon-u.ac.jp